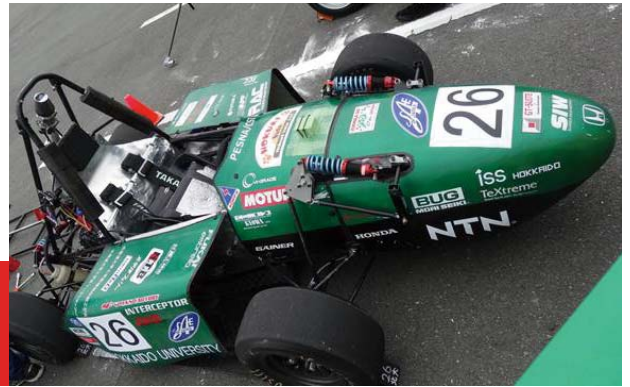


第12回大会を終えて

北海道大学フォーミュラチーム

Formula-SAE HOKKAIDO Team

<http://fht-hokudai.com/contents/main.htm>



Presentation プレゼンテーション

マシン名: FH-08

今年度車両の設計コンセプトは「低中速コーナリングスピードの向上」としました。これは動的審査における周回コースのコーナー支配率の高さに注目した結果、各コーナーにおける平均車速を上げ、全体のラップタイム短縮を図るものです。

シャシーコンセプトは「コーナリングスピードの向上」と設定しました。これを達成するためにシャシーの設計では、

1. 旋回時のコンプライアンス設計
2. 解析結果に基づくフィードバック
3. 可能な範囲での軽量化

を実施し、スキッドパッド時の旋回加速度1.5G達成を数値目標としました。

パワートレインコンセプトは「コーナリング時のスロットルレスポンスの向上及びコーナー脱出時の加速性能の向上」としました。リストラクターによってエンジン回転数11000rpm付近において吸気量が不足するため、リストラクターの影響を受けない回転域においてパワーとトルクの落ち込みを少なくするようパワーバンドを設定し、常用回転域を7500~10000rpmと設定しました。これを踏まえて最大トルクを8000rpmで発生させることを目標としました。

カウルは冷却系統・燃料系統への風量の安定供給及び空気抵抗・揚力の低減を目標に開発を行いました。さらに主材料をGFRPからCFRPにすることで重量の大幅な軽減を行いました。

Participation report 参戦レポート

私たちはこの1年間、総合優勝を目標にマシンの設計・製作やドライバートレーニング、チームマネジメントに励んで参りましたが、大会結果は総合38位と、目標には遠くおよばない結果となりました。

この大きな原因は、悪天候のために大会のメイン審査であるエンデュランスを走行する機会が得られず、大きく点数を落としてしまったためです。このようになってしまったことは、テスト走行不足であったり、大会中のプラクティス走行が行えなかったといった、チームマネジメントがうまくできなかったことがいちばんの原因と考えます。

今年度は、日程管理の改善・引き継ぎ体制の強化・役割分担の明確化を大きな目標として活動してきました。シェイクダウンは歴代で最も早い3月に、また新入部員は10人とある程度達成できた点がありますが、テスト走行回数を増やすことや設計者の負担軽減など達成できず次年度への課題となった点も多くありました。

次年度は新入部員が中心となりますが、今年度の反省を踏まえ、まずは優勝できる土台作りから頑張ります。

今回の総合結果・部門賞

- 総合38位

Profile チーム紹介・今までの活動

北海道大学フォーミュラチームは2006年に発足し、第5回大会から参戦し、今年度で8回目の参加となります。構成しているメンバーは17名、日本大会で総合優勝を最終目標とし、学生主体となって活動を行っています。

Team-member チームメンバー

近藤 光彦 (CP)

近久 武美 (FA)、小川 英之 (FA)、柴田 元 (FA)、
田部 豊 (FA)、國 拓也、渡邊 翔太、小林 晋、
宮下 修一、黒田 啓介、西岡 文弥、
久々津 諒平、貝沼 拓哉、長田 大輝、齋藤 誠司、
木下 竜馬、横山 修平、今 佑宇真、
佐々木 久慶、安田 真輝、近藤 俊朗

Sponsors スポンサーリスト

IDAJ、本田技研工業、ホクアイ・ベッツ、榛葉鉄工所、
NTN、ゲイナー、ソリッドワークスジャパン、ISS北海道、
荒川ラジエーター、ミネベア、トヨタレンタリース札幌、
BUG森精機、ソーダファクトリー、ゼット・エフ・ジャパン、
十勝スピードウェイ、北海道大学工学部機械知能工学科、
工学系ワークショップ、北工会、FHT OB会 他37社